

モラルサイエンス研究会（令和3年2月10日）発表要旨

オープンダイアローグ—問題をネットワークで背負う—

人間学研究室

客員教授 竹内 啓二

オープンダイアローグについて、斎藤環著『オープンダイアローグとは何か』の内容を紹介した。モラロジーの人心開発救済に、役に立つ可能性がある。問題を抱えた人をケアしたり、支援する場合、関係者、専門家、そして当事者が集まって、忌憚なく話し合いをするという方法である。当事者の考え、感じていることを専門家も含めた関係者が聴き、また、複数の専門家の意見、判断を当事者が聞いて、意見を述べることもできる。問題を解決することを目指すのではなく、ネットワークに復帰させること、対話を継続することを重視する。24時間体制で、問題を抱えた人からの電話に対応する。これまでのカウンセリングなどが、一対一で、専門家が分析、判断し、一方的に診断を下す傾向が強かったのとは異なっている。そして、それが驚くような効果をあげている。モラロジーの人心開発救済が、一対一的な傾向が強かったと思われるので、オープンダイアローグから学ぶことは多い。